



「本質的なリスク対策」

今回のアルジェリア事件後、「アフリカは危ない」というイメージを持たれた方々が多い印象を受けています。しかし、カントリー・リスクは各国・各地域にあるもの。本当にアフリカが「特に危ない」のでしょうか。たしかに、テロがあります。治安も決してよくありません。道路、水道、電気など、日本では当たり前とされているインフラもありません。とはいえ、日本国内であっても、最初はその地域の特性を理解できずに、ビジネスがなかなか思うように行かない経験をされた方も多いのではないのでしょうか。

世界を見渡してみると、実はどこも天災、人災、民族紛争、独立運動、資源・利権争い等々、数え切れない数の問題を抱えています。一方で、欧米、中国、韓国、どこをみても、内需に頼る経済成長には限界があり、海外への貿易販路拡大に全力を尽くしています。中東の資源がある国は、資源が枯渇する前に、または代替技術の発展で資源のニーズが大幅に低下する前に、国内の産業を立ち上げようと必死です。資源がない国は、どうやって資源を自分たちに有利な条件でもってくるようにするか必死です。日本でも、軍による戦争こそしていないかもしれませんが、国内で「資源争い」や「利権争い」、原発事故の汚染物処理問題などでNIMBY (Not In My Back Yard=自分の裏庭には来ないで)現象が各地で起きているのが現状です。

先日、ナイジェリアのプロモーションをされている方が、こんなことを仰っていました。ナイジェリアはたしかにビジネスのしやすさで他地域に劣る。しかしながら、その資源と市場規模の魅力から欧米からの投資がどんどん増えているのも現状であり「性格の悪い美人」のようである。と。「いやあ、美人は苦手で」、とおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、ナイジェリア、そしてアフリカ大陸に人を惹きつける魅力があるのも、また事実です。

欧米による搾取の歴史を持つことから、アフリカ諸国には「ほっておいても、資源をとりこくる外国人」に対し「お客様は神様」と扱う感覚がないのは、ある意味、当たり前なのかもしれません。そうした中、こちらのニーズで海外に出る時、目先の利益追求にばかり目が行き、日本人も忘れがちなことがあります。それは、現地には、その生まれ育った土地を愛し、そのコミュニティのためなら命がけで頑張っている人がいるということです。そこは日本と全く同じです。東北の復興にかける人々の想いと共通するものが、そこにはあります。

「郷に入っては郷に従え」という諺にありますが、「外国人」である我々日本人が相手の国にお邪魔させていただいていること、我々は往復切符を持っており、事件があると日本や他の国に避難することができても、現地の人はその土地に愛着を持ち、根を張って生きていること、その熱い想いを共有し、その土地と人々のために尽くしたいことを伝え、愛され、住民が守りたいと思われる企業に成長することが、国内外問わず、すべての企業の最大のリスク対策で

あることを、我々は思い出す必要があるのではないのでしょうか。これを理解し、肝に銘じて行動することが、本当の意味でのWin-Winの利益追求に繋がるのではないかと思います。

あとは、全ての国にリスクがあるので、どの国に行くかを決めるのは…もうこれは「御縁」の世界ではないのでしょうか。人が人と出会う理由は誰にもわかりません。でも、そこに不思議な力が働いているのは確かなようで、たまに片道切符で移住して、その土地を愛する方が出てきたりします。

旧正月のタイミングとなってしまいましたが、遅ればせながら、皆さまとの出会いに感謝しつつ、2013年も皆さまにとって良き出会いと御縁多き年でありますようにお祈り申し上げます。

濱 美恵子(email: mh@komatsuresearch.com)